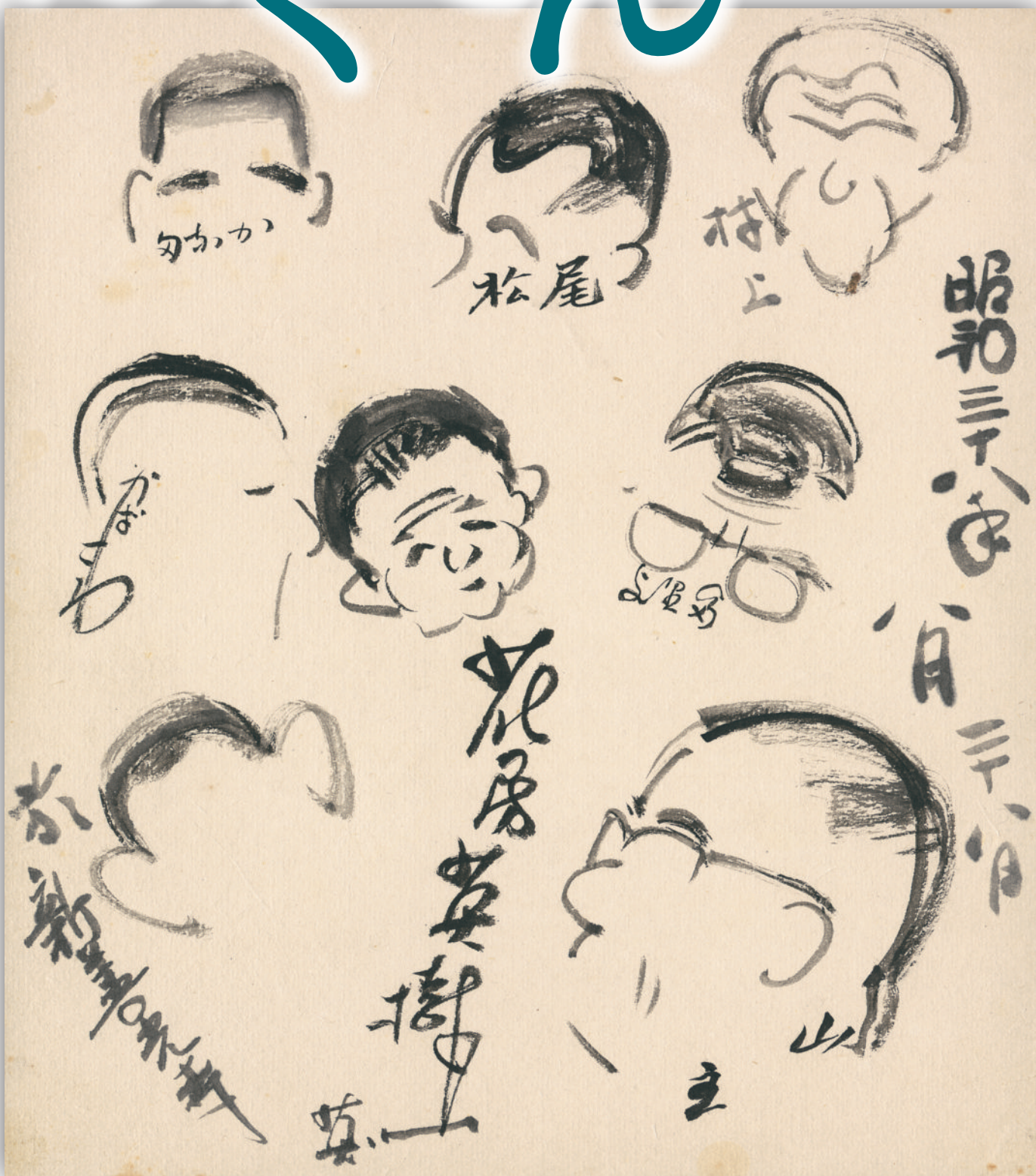


ほくえん



ぎよき えいたい し どうほうよう 御忌・永代祠堂法要のご案内

6月19日(日) スケジュール

- 午前10時～ 合葬墓前にて法要
(納骨されている全精霊位様をご回向します)
- 午前11時～ 法話(右ページ参照)
………… 昼食休憩(お参りの皆様に昼食を用意しています) ……………
- 午後1時～ 本堂にて御忌・永代祠堂法要

「御忌」とは念仏の元祖・法然上人の忌日法要のことです。大永4年(1524)に後柏原天皇が下された「大永の御忌鳳詔」で、“毎年正月、京畿の門葉を集め一七昼夜にわたって御忌をつとめ、はるかに教えの源をたずねよ”によります。

法然上人のご生涯は、み仏の限りない慈悲の光の中に生かされ、限りない生命の喜びをかみしめるために只“南無阿弥陀仏”をとなえよと私達にお勧め下さったことにつき、そのみ教えは今も私達の中に輝いています。

当山では、6月19日、以下の寺院様ご参列のもと、御忌法要を執り行います。

- 法性寺(石狩市) ●阿弥陀寺(岩見沢市) ●天徳寺(江別市)
- 龍雲寺(札幌市北区) ●大松寺(札幌市南区) ●玄松寺(札幌市中央区)
- 長専寺(札幌市豊平区) ●善道寺(札幌市豊平区) ●開運寺(札幌市北区)
- 観音寺(札幌市中央区)

また、御忌法要と合わせて、永代祠堂の精霊1377霊位(個々の霊位に関しましては別紙にてご案内しております)をご回向させていただいております。

是非、ご家族お揃いでお参りいただき念仏をとなえて法然上人のみ教えの遙かに源をたずね、ご先祖様に思いを馳せていただきたく存じます。

新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。

永代祠堂
一霊位様二十万円



本堂での法要



合葬墓前での法要



法話
さなだまる おおさかてらまち
真田丸と大阪寺町

大阪大通寺 住職 太田 寛隆 師



(大阪府天王寺区)

昭和 24 年 9 月 13 日 生まれ

昭和 47 年 浄土宗教師資格取得

昭和 49 年 北海道大学文学部国語国文科卒

平成 18 年 大通寺第 28 世住職叙任

平成 25 年迄 大阪明星学園国語科教諭

現在、NHK 大河ドラマで放映されている「真田丸」。真田丸があったとされる場所は大阪明星学園の辺りといわれています。住職のいここである大通寺住職の太田寛隆師が国語教諭として長く勤めていた学校が、まさにその明星学園です。今年の法話は「真田丸と大阪寺町」と題して、モニターを使い大阪弁をまじえてわかりやすくお話しいただけるとのことです。

是非ともお聞きください。



〈進呈〉法要に参詣いただいた各家様には『仏教は現代の苦しみに効く?』をお渡しします。「仏教は失恋に効くだろうか」という素朴な疑問から生まれた書籍で、確かな知識をベースにしながらも軽やかな対話を通して、仏教の幅広い教えに触れていただける一冊です。

仏教は現代の
苦しみに効く?

池口龍彦
著
込田博英
著

「オチ」を
「オチ」を
「オチ」を
「オチ」を

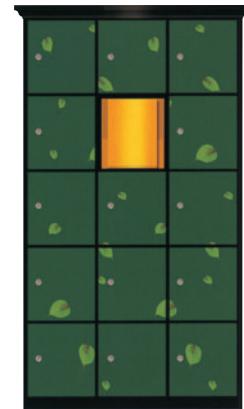
新納骨堂完成のお知らせ ～ともいきの心と共に～

新善光寺には約 1000 基の納骨壇があります。現状ほぼ入られており、大きいところだと空き待ちという状態が続いています。また、近年は少子化などが影響し、代々お墓を継いでいくことが困難になってきています。そのような状況を鑑みまして、今年の 4 月より新善光寺に新たな納骨壇を設置しました。現代的なデザインが特徴で、今までの仏壇タイプではない新しいタイプのぬくもりがある納骨壇であります。

“**靈光殿 共生**
(ともいき)”
40 基限定

個人壇〈五段型〉

箇所	権利金	年間管理費	収蔵数
上段 (上から 1～3段)	25 万円	2 千円	原則 2 体 まで
中下段 (下から 2段)	20 万円		
下段	15 万円		



共生とは、単にこのいまの世でのことだけではなく、過去から未来への“いのち”のつながりをいいます。私たちはご先祖から未来へつながっている多くの“いのち”と共に生かされているのです。この納骨堂がそのような一助になればと思います、名付けました。



見学・申込は随時受け付けています。また、遠方からお墓を移したい、今後の事が心配などという方もお気軽にご相談ください。



各納骨堂の案内

〈宮の沢別院〉

手稲山の大自然を眺める 快適なバリアフリー環境

仏壇型と現代型（パネル式）の2つの納骨堂があるのが特徴です。段差もなく快適なお参りができます。



〈東京 霊源寺〉

都心の静寂・安心な供養

東京都品川区にある霊源寺では平成22年より都市型納骨堂をはじめました。承継の心配が無い永代使用檀があり、また最寄り駅が山手線「五反田」駅と都心にある、お参りしやすいのも特徴です。



〈新善光寺 永代供養墓〉

永遠なる安心を

北側境内にある合葬墓で、お地藏様を奉っております。永代に渡り、お寺が責任を持ってご供養いたします。



知恩院の中に神社が?!

知恩院は、京都の東山三十六峰のひとつ華頂山^{かちょうざん}にある浄土宗の総本山です。法然上人（1133～1212）が、この知恩院でお念仏の教えを広め、往生された所です。その知恩院の中に神社があるのです。お寺の中に神社と聞くと、驚かれるかもしれませんが、皆さんのお宅を考へても、お仏壇と神棚がなんの不思議もなくおまつりされているお家もあるでしょう。今回は、知恩院の中にある神社のいわれなどを通して、日本人の信仰のあり方をみてゆこうと思います。



三門をくぐり、御影堂^{みえいどう}の前を進み、御廟につづく階段を登り、勢至堂の脇を行くと、歴代御門主^{ごもんす}のお墓がならぶ一番奥に、濡髪祠^{ぬれかみのほこら}があります。この濡髪祠には、次のようなエピソードが伝えられています。江戸幕府三代将軍徳川家光公（1604～1651）の頃、知恩院は大規模な造営がなされました。その工事のおかげで、今まで平穩に暮らしていた野狐^{のぎつね}が、住処を追いやられてしまいました。生きる場所を奪われた狐は、その怨みを晴らそうと、童子の姿に化けてお説教の席に、なにか悪さをしてやろうとたくらみつつ、まぎれ込んでいました。お説教をしていたお坊さまは、その童子を奇妙に思っていました。というのも、髪がびしょびしょに濡れていたのです。そして、お説教が終わると、その濡れた髪の童子は、さびしそうにそそくさと帰っていくのでした。その童子の後ろ姿が気になったお坊さまは、思い切って声をかけてみました。すると、童子は「私はこの場所に住んでいた狐です。この大きなお堂が建って、私たちはここに住めなくなりました。そこで嫌がらせでもしてやろうと思ひ、お説教の座に忍びこみましたが、お話を聴いているうちに他者に危害を加えたところで、本当の意味で自らの心が晴れるわけではないと…。別な所で、静かに暮らします…。」と話しました。そのことを知り、あわれに思ったお坊さまは、狐のために祠を建てました。これが今に伝わる濡髪祠（濡髪大明神）のいわれです。

この濡髪大明神の逸話を、単なる現実離れた空想的な物語として受け取ってしまうのは、もったいないことだと感じます。私たち人間の行為は、何かしらの悲しみを伴うものです。一見、華々しく思える行為も光と影の側面があるということを、濡髪大明神は教えてくれているようです。



濡髪祠の裏側には、狐の通り道の小さな穴があげられています

さて、神仏が同居する知恩院ですが、これはなにも知恩院に限ったことではありません。日本のすみずみには神と仏が共存しています。それは、仏教伝来からおよそ1500年の長きにわたり、神仏は対立と融合を繰り返しながら、寛容性のなかに日本人独特の信仰が育まれてきた証であります。その寛容性ある日本人の感覚をこれからも大切にしてゆきたいものです。 〈文：立花 俊輔〉

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話⑬

〈私達の道はお念仏ただ一行〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



今か今かと待ちわびていた花の芽が一盛に咲き出し、美しい北の春がやってきた。長い冬を励まし助け合った私達へのご褒美かもしれない。また北海道新幹線が開通し、新たな歴史を刻んだ春ともなった。亡き長男が「鉄ちゃん」だったので早速、母の私は長男との同行の旅を実行した。早朝6時札幌発で美しい大沼公園を過ぎると直ぐに新設された新函館北斗駅だ。乗り換えのためエスカレーターを上るとテレビでよく見慣れた緑色のピカピカ光る列車が見え、思わず胸が舞った。15両編成の7両目窓側の席、車内は意外にも空いていた。間もなく海峡トンネルに入り、あっという間に走り抜けた。

新青森駅で1人の女性が隣に座った。私と同じ70代位の方で、剃髪の私を見て直ぐに「お坊さんですか」と話しかけられた。息子さんの婚約者に会う為の上京だと話した。初対面なのに次々と話し続けた。昨年ご主人を亡くされたということ、元々キリスト教信者だったが嫁いだ先が浄土宗だった彼女は熱心な恐山信仰の土地柄も加わり、宗教への関心が強かった。年齢と共に、益々広がってゆき阿弥陀仏ばかりでなく他の多くの仏様菩薩達への思いが広がり、やがて独特の文言「阿あ 釈しゃく 薬やく 観くわん 天てん 天てん 八はち 蔵ぞう」という様になったと話した。その言葉を知っていた私は「その意味知ってる？」と問うと、「少し…」の答えに、にわかに布教師の血が騒いだ。「阿」は阿弥陀仏、「釈」は釈迦牟尼仏（お釈迦様）、「薬」は薬師如来、「観」は観音菩薩、「天天」は天神と天照大神、「八蔵」は八幡とお地蔵さんのことだと伝えた。「ご主人様の臨終の時にはどなたがお迎え下さったと思う？」「勿論、阿弥陀仏よ。来迎引接身の約束通り、臨終の枕元に現れて西方浄土に迎え入れて下さったのよ。」そう一気に伝えると彼女はかすかに微笑み安心した様子だった。この不思議な仏縁は法然上人が与えてくれたのだろうか…と思った。

はやぶさ号は14時20分、東京駅に着いた。息子さんが迎えに来てくれた彼女と別れ、私は増上寺御忌奉仕の為に浜松町へ向かった。

法然上人は「私達の道はお念仏ただ一行」の教えを残して下さった。阿弥陀仏のお迎えいただくその日迄、ただひたすらお念仏申し続けたい。

東京タワー前の増上寺に入ると木魚の音とお念仏が響き、私を待っていたかのように満開の桜が舞い始めた。

ごくらく みち なむ あみ だぶつ しあんくふう みち
“極楽の道はひとすじ南無阿弥陀仏 思案工夫のわき道するな”



シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑩

前号まで、「誦経」についてお話しました。復習になりますが、「誦経」とはお釈迦さまのお言葉である経典を読誦（声に出し、お称えすること）することです。浄土宗でよく読む経典で「仏説無量寿経 卷上」の「四誓偈」というお経の中身や読み方についてお話してきました。今回は、お勤めのプログラムである「次第」におけるその次の「回向文」についておはなししたいと思います。

・回向文

「回向」とは、読んで字のごとく「手向けたものが回ってくる」の意となります。我々が亡くなられた縁者へご供養の気持ち、経の功德を手向けたものが、お浄土からも回って還ってくることを指します。そして「回向文」とは、読誦した経典の功德を何に対して手向けるのかということを示す部分になります。よって、「次第」では「誦経」の後になります。

回向文の種類は様々あります。浄土宗の宗祖法然上人の回向文は「自信偈」という回向文。お釈迦さまには「敬礼偈」。先祖や個別の精霊に対しては、「聞名得益偈」や「一切精霊偈」などの偈文（経典などの文言）があります。（※参考）

これら回向文は、法要の種類や手向ける対象によって使い分けることとなります。お坊さんがお勤めする場合は、実際使い分けてお称えするのですが、この場では檀信徒の皆さんが日常勤行の中で読む代表的な回向文、阿弥陀さまの本願の功德に対する回向文である、「本誓偈」についてお話ししましょう。

・本誓偈

では、実際「本誓偈」とはどのような偈文か下に記します。

● み だ ほん ぜい がん
● 弥陀本誓願
● じょう さん とう え こう
● 定散等回向

● ごくらく し しょうもん
● 極楽之要門
● そくしょう む しょうしん
● 速証無生身

● : お鈴の打つ場所を指します。

いつもの様に書き下してみましよう。

「弥陀の本誓願は、極楽の要門なり 定散等しく回向して、速やかに無生身を証せん」

これを現代語に意識してみます。

「阿弥陀さまのお誓いになった本願であるお念仏のみ教えは、極楽世界というお浄土へ往生するための肝要な門となります。心に曇りのない定まった人のお念仏、また心の散漫しがちな人が称えるお念仏の功德を共に浄土へ往生する目的のために手向けて、速やかにこの身が生死を超えた覚りの境地になるようつとめましよう。」



ここで難しい言葉は、「定散」という言葉です。少し掘り下げてお話しすると、「定散」は正式には「定散二善」といい、分けると「定」は「定善」、「散」は「散善」と言います。

定善は阿弥陀さまのお姿や、お浄土の様相を心の定まった状態で念ずることで、「観無量寿経」においてはその念じ方を13種類に分け説いています。また、散善は心が散漫になってなかなか集中できない人でも出来る道徳的なよい行いのことです。浄土宗の宗祖法然上人はその著書「選択本願念仏集」の第十二章に「散善に付いて二有り。一には三福、二には九品。」と記されていますが、ここで善い行いとそれを実践できる人、出来ない人を具体的に分けて記されています。どんな方でも最後にはお念仏によって救われるというのが浄土宗の教えです。

次に「速証無生身」の部分「速やかにこの身が生死を超えた覚りの境地になるようつとめましょう。」と意識しましたが、これをもっとかみくだいてみると「お念仏によって、阿弥陀如来に自らの全てをお任せし、現世に生活している間に体感する様々な苦しみ（思い通りにならないこと）や死に対する不安を感じない境地となり、この世での生を終えるときには、阿弥陀さまの極楽世界へ往生すると信ずる心をもちましょう。」ということです。

これらの意味のこもった「本誓偈」をお称えしたのち、その意味をのせる気持ちを含め、お十念をします。

(※ 参考)

じ しん げ
【自信偈】 法然上人の回向文

じ しんきょうにんしん
● 自信敬人信
だい ひ でん ぶ け
大悲伝普化

なんちゅうてんきょうなん
● 難中転更難
しんじょうほうぶとん
真成報仏恩

● : お鈴の打つ場所を指します。

もんみょうとくやくげ
【聞名得益偈】 故人を供養するときの回向文

ご ぶつ ほん がんりき
● 其仏本願力
かい しつとう ひ こく
皆悉到彼国

もんみょうよくおうじょう
● 聞名欲往生
じ ち ふ たい てん
自致不退転

● : お鈴の打つ場所を指します。

いっさいしゅうれいげ
【一切精霊偈】 ご先祖様を供養するときの回向文

いっさいしゅうれいしゅうごらく
● 一切精霊生極楽
ぼ だい ぎょうがん ふ たい てん
菩提行願不退転

じょうぼんれんだいじょうしょうがく
● 上品蓮台成正覚
いん どの さん ぬ ぎゅうほうかい
引導三有及法界

● : お鈴の打つ場所を指します。

【新善光寺物語⑬】

先代住職悲願の山門を建立する ― ①

平成6年の5月から組み立てを始め、宮大工さん達の卓越した技術力により、あれよあれよと言う間に完成へと向かっていきました。5月27日には上棟式を行い、7月に竣工となりました。全高は8.9m、構造は木造で木曾檜ひのきを使っております。

そして9月15日に落慶法要を執り行いました。お稚児さんの行列もあり、ススキノの一角（オークラビルら辺まで）を練り歩きました。住職が山門の外側から酒水をおこない、「広開偈」というお経を唱え、「開門！おー！」の掛け声の元、万感の思いのこもった開門となりました。残っている映像から、開門の瞬間のおごそかな雰囲気の中なので声にならない歓声を見ても、新善光寺そして檀信徒の皆様念願の山門だということが伝わってきました。

設計をして下さった日本建築の第一人者の清水稔次先生が落慶式の前に記念講演を行い、その中で「この無碍光門が永遠にその時代その時代の人々に最も雄弁に語りついでくれるだろうと思っています。」という言葉どおりに現
在も今後も山門は変わらずにあり続けることでしょう。 〈山門編終了〉

当時の山門の映像が残っていましたのでYouTube上で公開することにしました。

「新善光寺 YouTube」で検索してみてください。



上棟式です



練行列です



開門の瞬間です



お寺の額縁を紹介します⑤

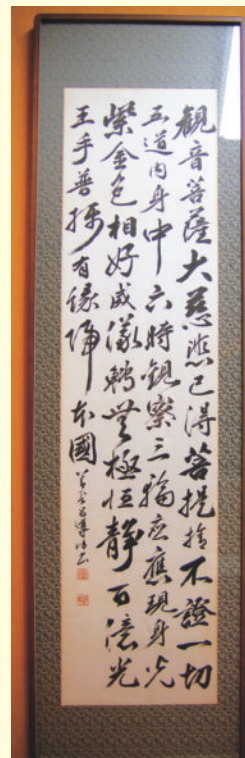
8 き うんたい 輝雲台

当寺の南5条通り側の建物を「輝雲台^{きうんたい}」と呼びます。この輝雲台の2階にある額がこれです。これは、高階瓏仙師^{たかしなろうせん}（明治9年～昭和43年）の揮毫です。師は、曹洞宗管長を勤められ、また、全日本仏教会の会長としても、仏法の興隆に尽力された方です。味わい深い書風は、師の精神性がにじみ出ているかのようです。



9 おうじょうらいさん 『往生礼讃』一節

この書は、青森県弘前市にある浄土宗貞昌寺・赤平昌導師の筆です。師は、よく書をされた方で、当寺の門柱の揮毫もしていただきました。この額は、輝雲台という建物の1階・エレベーターの脇にあります。「観音菩薩……」からはじまるこの文章は、唐の善導大師によって著された『往生礼讃』の一節です。観音菩薩さまは、阿弥陀さまの右脇におられ、蓮台を持っている菩薩さまです。阿弥陀さまの慈悲の心を表しています。





お知らせ

仏教講座はじまりました

前号でお知らせしたとおり、4月23日（土）午後2時から第1回仏教講座「写経」をおこないました。ご覧の通り、多くの方々に参加いただき、「心が落ち着きました」「楽しかったです」などと好評を得ました。流れとしては写すお経の解説をしてから実際に写経をして、書き終わりましたら本堂で納経法要、その後茶話会というかんじでした。老若男女問わず、お子様も参加されていました。

今後、数回は写経をメインにしますが、いずれは写仏や腕輪念珠作りなどバラエティーに富んだ講座にする予定です。お子様用の写経も用意しております。是非、ご参加ください。



次回の講座は同じく「写経」です。

平成 28 年 6 月 25 日（土） 14 時から

参加料 500 円 事前申込不要で道具はお寺で用意します。

今後は以下のように進めていきたいと思えます。

7月23日(土) 8月27日(土) 9月24日(土) 10月22日(土)

以降 毎月第四土曜日午後2時開始。写経の内容は毎回変わります。

寺院を巡る旅が今年もありますよ



昨年に引き続き、秋の寺院参拝ツアーを今年も行います。前回は小樽・余市と2つの寺院を巡りましたが、今年は当別にある曹洞宗の全久寺様とその近辺の寺院を巡る計画を立てています。このツアーの特徴としては、普段なかなか訪れる機会のない寺院に参拝して、その内部までじっくり見ることができるといふことにあると思えます。詳細は随時お知らせしていきます。是非、ご参加ください。

平成 28 年 10 月 12 日（水）

参加費 5,000 円

参拝寺院：曹洞宗・全久寺様、ほか調整中です。



今年も楽しく時空を超えた散策を 鴨々川を着物でそぞろ歩きいたしましょう

一昨年からはじめた鴨々川周辺の文化イベント「鴨々川ノスタルジア」を今年も新善光寺・東本願寺・中島公園を会場としておこないます。昨年とかわるところは午前・昼の部を東本願寺で、そして夜の部を新善光寺にと分けたところです。新善光寺では「怪談朗読会」や「芸者衆の踊りを見る会」「着物でファッションショー」など盛り沢山です。

ほか東本願寺では篆刻・水墨画・切り絵などの体験講座や中島公園内日本庭園では“八窓庵付設・三分庵”でのお茶会・子ども向け昔遊び体験など知的好奇心に満ちたイベント……まちぐるみの「遊び」となっております。

平成28年9月30日(金)～10月2日(日)

〈新善光寺会場〉

9月30日(金) 19時～ 口伝 薄野怪談「羅生門」VOL.1
(原作：立原透耶・乾ルカ)

薄野の原風景と日本文学「羅生門」を融合させ、新たな形で薄野から文化を発信します。

10月1日(土) 17時半～ 鴨ノス寄席・札幌芸者衆の踊りを見る会

10月2日(日) 16時～ 着物ファッションショー
「着物でランウェイ～着物100年史」

詳細はホームページにて



イベントに先立ち今年の5月7日より“中島公園・すすきの 名所を巡るガイドツアー”がはじまりました。

その界限には昔ながらの街並みを感じることでできる名所が数多くあり、歴史マップを見ながらガイドさんが街の魅力を余すところなく紹介していただきます。

集合時間：午前8時50分

集合場所：札幌パークホテル 1F ロビーラウンジ

火曜日：中島公園散歩コース

土曜日：寺町すすきのコース

どちらも所要時間は午前9時～10時30分の一時間半程度。

ツアー料金 **雨天決行**

お一人様：¥500 (大人・子ども同額)

お申し込みは電話、メールにて受け付けております
お問い合わせ・ご予約は札幌パークホテル マーケティング室
Tel.011-511-3143 E-mail:infosph@granvista.co.jp
(受付時間) 土曜・日曜・祝日を除く 午前10:00～午後6:00





職員を紹介します—特別編

前々号 30 号で一旦終了しました紹介シリーズですが、今回は特別編として 8 月お盆の時に手伝いに来ていただいている僧侶を紹介したいと思います。



いwasaki こうき
岩崎 浩基 上人 (昭和 38 年 9 月 3 日生まれ)
(大阪 大應寺 副住職) お参り地域：西区

佛教大学在学中に僧侶の浄土宗教師資格を取得。卒業後、僧侶として 33 年従事。趣味は書道・空手・野球観戦。書道は準師範、空手は極真空手の初段・黒帯。野球は阪神タイガースのファン。

(本人より)

大阪天王寺区にある自坊は、大河ドラマ「真田丸」でも取り上げられる大阪冬の陣の出城跡にあります。

家族は両親と家内と息子 2 人。長男は広島市立大学 4 年生、二男は今春から北海道大学経済学部に通っています。どうぞよろしくお願いします。



まつもと けんてん
松本 兼典 上人 (昭和 45 年 12 月 8 日生まれ)
(大阪 貞松院 副住職) お参り地域：白石区

佛教大学専攻科在学中に浄土宗教師資格取得。東大阪の自坊は尼僧である叔母が住職を務める寺であり、近くには作家、司馬遼太郎さんの記念館がある。春には司馬先生が生前中お好きだった菜の花が町中に咲く華やかな町である。

(本人より)

家族は妻と 4 歳の長男、6 月でやっと 1 歳になる次男の 4 人家族です。私生活では休日などに時間を作って、子どもと公園で遊ぶのが何よりの楽しみです。趣味は特になのですが、美味しいものを食べることが大好きで、毎年札幌滞在中に皆様に教えていただいたお店で食事するのが楽しみです。



たかせ ゆうしん
高瀬 勇信 上人 (昭和 52 年 7 月 19 日生まれ)
(東京 霊源寺所属) お参り地域：中央区・東区

在家（一般家庭）出身。高校の後輩がお寺の息子で、スカウトされて浄土宗僧侶となる。修業時代の同期に新善光寺の徒弟であった堀内師がいた縁で現在東京の霊源寺に所属。現在は霊源寺と杉並区にある西方寺の二ヶ寺に勤務（西方寺は、新善光寺住職の母の生家です）。趣味はアウトドア・パソコン・珍しい食べ物を食べる事。



ささき しゅくこう
佐々木 淑公 上人 (昭和 36 年 5 月 18 日生まれ)
(神奈川 専念寺副住職) 内勤担当

当山住職の親戚にあたり、10 数年くらい前までお盆の手伝いに来ていたが、昨年よりまたお手伝いとして来てもらうこととなった。趣味はスポーツ観戦と演歌鑑賞。スポーツは相撲観戦、また北島三郎の大ファン。納骨堂でのお勤めなどを担当します。



《宮の沢別院から》

どんりゅう上人伝⑦「呑龍上人 極楽往生」

呑龍上人の周りには、多くの信者が集まってきました。中には国禁の罪に追われている者も呑龍上人のもとを訪ね、その者に救いの道を説くために呑龍上人までもが追われる身になることもあったほどです。

呑龍上人は、晩年心中に感じるところがあり、自らの木像を彫る決心をしました。一刀一刀彫る中に、末永く人々を救う寺であり続けることを願い永遠の誓いを込めたのでした。呑龍上人、六十七歳の時でした。

暑い盛りの八月三日。呑龍上人は大勢の弟子たちを一同に集め、「来る九日には私も極楽浄土へ旅立つだろう、そして最期の十念のときには必ずや大きな雷鳴が響き渡ることであろう」と告げたのでした。八月九日の正午のことです。空に五色の彩雲がたなびいたかと思うと、呑龍上人はじめ一同の十念の声とともに突如、大雷鳴が天地をゆるがしました。そして一同が呑龍上人の方に目を向けると、泰然として仏前に向かい、正座合掌をして微笑みを浮かべたまま、息を引きとられていたのでした。まさに劇的な、しかも安らかな極楽往生のお姿でした。世寿六十八歳でした。

努力と忍耐、そして一人でも多くの人を幸せにしたいという男気とやさしさ、呑龍上人が自らの人生をかけて教えてくれたこと、それはすべての人々を救おうとする、阿弥陀様のお心そのものであったに違いありません。そして現在においても呑龍像をお参りすると私たちの心の悩みや体の苦しみにこたえてくれているかのようにそのお像から念仏のお声が聞こえてくることでしょう。

呑龍上人像の宝前にて御祈願を行っております。
ご希望の方は別寺院務所までご連絡ください。



〒 006-0005
札幌市手稲区西宮の沢 5 条 1 丁目 19-35
TEL 011-668-5110 FAX 011-668-5111
担当：太田



婦人会から

お寺を通したあたたかい輪に入りませんか

新善光寺の婦人は^{めいしょうふじんかい}明照婦人会とい
い、約20数名の会員の方がおります。月
1回（3、6、8、9、11月は除く）の例
会・お盆やお彼岸の法要の手伝いなどを
していただいております。雰囲気は和気
あいあいとして新善光寺を通したご縁を
はぐくんでいます。ご興味のある方はお
参りの際にでも、またはお電話でも気軽
にお問い合わせください。



TEL 011-511-0262（担当：野崎・立花）

しろいし幼稚園から

すくすく育て ほとけの子

4月25日、新善光寺にしろいし幼稚園の年長組約90名が参拝に訪れました。宝
塔・本堂・骨仏の順でお参りし、本堂では灯りとお花を献じました。しろいし幼
稚園では仏教保育を通して、いのちの大切さを知り、素直でやさしい心をもった
ほとけさまの子を育てています。



新善光寺学園 しろいし幼稚園

札幌市白石区平和通1丁目南6-16

TEL 011-861-4426

しろいし幼稚園 検索



— お檀家タウンページ ～ともいき訪問⑨—

三八菓舗 開拓都市札幌にふさわしい老舗

今回は「札幌タイムズスクエア」「バターせんべい」などで知られる三八菓舗様を訪問してきました。

南一条の電車通りに面した本社に赴き、小林孝三社長にお話しを伺いました。ちょうど写真を整理されている時で、色々な写真を見せてくださいました。

小林弥三八が明治三十八年三月八日に「日の出屋」という菓子屋を開き、大正三年に「三八」と屋号を変えて、南二条西三丁目に店を構えました。

昭和七年に本店を南四条西三丁目のススキノ交差点に（写真参照）、工場を現在の本社に移し、現在

に至ります。ススキノ店はニッカウキスキーの看板でおなじみのすすきのビル1階です。



新善光寺で重宝しているのが菓か舎ブランドの「札幌タイムズスクエア」です。なぜかというところ、一個ずつ箱に入っているため、お供物として飾るときに非常に安定していて飾りやすいというのがあります。また東京別院霊源寺の彼岸法要では期間限定味なども発送して、参拝の方にお渡しして好評を博しています。

ススキノで青年期を過ごされた社長によるとお店の隣の民家で熊を飼っていたそうで、当時の大らかな時代背景が思われます。お菓子のパッケージに熊のイラストが使われているのに関連しているのでしょうか。ちなみに熊は大きくなったらどこかに引き取られたみたいです。丸井今井や三越や大丸など札幌市内の百貨店、新千歳空港でも取り扱われていますので、日常のおやつやお土産そしてお供えものとしていかがでしょうか。

三八菓舗

札幌市中央区南1条西12丁目322
電話 011-271-1138
<http://www.kakasha.com>



←現在のラフィラにありましたが（昭和七年撮影）



慈啓会から

慈啓会特別養護老人ホーム 認知症対応型デイサービス(さくら)の紹介

認知症とは、色々な事が原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしてしまったりすることで、様々な障害が起こり、生活する上でも多くの支障が出ますが、そのような状態がおおよそ6ヶ月以上継続している状態をいいます。認知症になることで一人暮らしの人も、家族と暮らす人も生活をする上で様々な問題を抱えることにもなります。

認知症はだれにでも起こりうるものですが、年齢を重ねるにつれてその発症率も高くなり、85歳以上では4人に1人がその症状があるといわれています。

これからますます65歳以上の人口が増加する日本にとっては、老後の最大の不安ともいえます。その不安が少しでも軽減され、様々な問題を抱えながらも、出来るだけ長く家族や慣れ親しんだ自宅で生活を継続できるようにお手伝いするサービスとして、認知症対応型デイサービスという事業があります。

当法人が運営する認知症対応型デイサービスでは、通所先で専門的なケアを提供することで、認知症の方が可能な限り自分の力を発揮しながら生活できるように機能維持を図る、また、一緒に暮らす家族と力を合わせて生活が継続できるようにケアの困りごとや心配ごとの相談にのったり、家族への休息を提供するなどの役割を担っています。

現在、中央区内には6ヶ所の認知症対応型デイサービスがありますが、当法人の場合、1日あたり利用定員12名で要支援1～要介護5までの方が月～土曜日の間にご利用いただけるようになっております。担当する職員を含めても少人数ですので、利用者さんの状態やリズムに合わせた関りとプログラム内容が特長となっております。



利用者さんが自然にくつろいで過ごせる、第2の自宅としての役割を果たせることを目標に職員は日々努力しております。見学などご興味のある方はどうぞ遠慮なく是非お問合せください。心よりお待ちしております。

慈啓会デイサービスセンター
センター長 道林松美

お問合せ先：011-561-8291



北縁 なんでも Q & A 特別編

「世界三大宗教の違い」② (全3回)

特別編第二回目です。前号ではキリスト教、イスラム教のそれぞれの特徴を掲載しました。今回は我々の宗教、仏教についてまとめていきましょう。

仏教

—開祖 お釈迦さま—

仏教を開かれたのはご存知、お釈迦さまです。お釈迦さまの本当の名前は「ゴータマ・シッダールタ」と言い、現在のインド北部を治めていた釈迦族の王子としてこの世に生を受けました。29歳の時にこの世の無常を痛感し、悟りを開くべく出家します（「四門出遊」という出家にいたるまでの有名なお話があります）。

その後、断食行などの苦行を含む修業を積み、35歳の時、菩提樹の下で21日間の瞑想を経て悟りを開かれます。以後、80歳で入滅（涅槃ともいいます）するまでの間、各地を遊行して法（仏の教え）を説き続けました。

—仏教の教え—

キリスト教やイスラム教では、唯一無二の神を崇めます。人間は神のもとにおいて、天国・楽園を目指します。人は決して神になれることはありません。しかし、仏教では、すべての人間には仏性（仏になる可能性）があると説きます。そして、仏性を開花出来れば仏になれる（=成仏）と説きます。成仏することが仏教の教えの最終目的となります。

仏教の教えの根本を簡単に説明すると、とても分かりやすい句があります。それは、法句経という經典にある「七仏通誡偈」という偈文です。この偈文はお釈迦さまを含む過去七仏が共通して説いた訓戒の句と言われるものです。

諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教

意識すると「悪い行いをしないよう心掛け、良い行いをするように努める。自分の心をきよらかに保つようにする。これが仏教の教えである。」となります。なんとも当たり前のことを言っているようですが、これら「当然のこと」にしたがって生活することが幸せにつながっていると教えているのです。このように、仏教の教えとは実践に赴く教えで、そこには誰もが納得できる教えが展開されていると言えます。

—仏教の根本教説—

お釈迦さまの教えには根本教説といわれる「三法印」と「縁起」というものがあります。「三法印」は「諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜」の三つの教えで、簡単に言うと「時は流れ、人は老いるという事実の中で生きている。全ての物事は原因と条件によって成り立っている。そのことをわきまえて様々な欲への執着を捨てれば迷いのない境地に達する」という教えです。さらに「縁起（この世は全て縁によってなる）」によってこの世の一切の存在のあり方を示しています。これらの教説により「四聖諦」という真理を得ると説きます。

—仏教の死生観—

さて、仏教の死生観ですが、我々の存在するこの世界は娑婆世界または此岸と呼び、命終の後には娑婆世界を含む迷いの世界を転生（輪廻転生）すると説きます。しかし、仏道修行などにより迷いの世界から輪廻のない世界（彼岸）へ生まれ変わると説きます。阿弥陀さまの「極楽世界」というお浄土は中でもよく知られています。



〈お知らせ〉

4月に発生した熊本震災に際し、募金箱を寺務所前に設置しました。皆様からいただきました募金は日本赤十字社に全額寄付いたしました。

〈東京便り〉

品川区にある霊源寺では3月25日に春彼岸法要をおこないました。新善光寺からは副住職が参加し、霊源寺所属の僧侶と共に御参りいたしました。このように春・秋彼岸法要、そしてご自宅へのお盆のお参り・法事もうけたまわっております。東京近郊にお住まいの方はお気軽にご参加、またお問い合わせください。



大光山 霊源寺 受付時間 9:00~19:00 毎日見学受付中
東急目黒線・不動前駅 徒歩7分(桐ヶ谷斎場真向かい)〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2
TEL:03-3494-1083 FAX:03-3494-6319 大光山霊源寺 検索

〈表紙紹介〉

今号の表紙は花房（能）英樹先生の作品で、昭和38年当時新善光寺にいたお坊さんの顔を特徴をとらえて描いたものです。右下が山主（住職）中央上が松尾上人、左下が北見賢明上人です。

編集後記

今回は前号から4ページ増量して20ページ構成になりました。今回のお檀家様の取材は「三八」様でススキノの昔話を含めてたくさんのお話を聞かせていただきました。このシリーズはいつも皆さん快く取材を受けてくださるので感謝しております。前々号で紹介した「焼き鳥 錦（南3条西3丁目）」様には取材後もちょくちょく行くようになりました。新善光寺を通したご縁が皆様にも広がっていただければ幸いです。

今回も沢山のご感想・ご意見お待ちしております。 (海)

新善光寺

検索